



Divemaster eLearning

Quick Review Answer Sheet

PADI Instructor Manual、RDPテーブルとeRDPmlが必要になります。

1. ダイバーが PADI Divemaster に期待している 2 つの特徴的な資質は、プロフェッショナリズムと模範的行動です。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

2. ダイバー確認作業の主な目的は：

- ☐ 反復潜水を計画するのに必要な情報を得る。
- ☐ エントリーとエキジットのときにダイバーの名前をチェックし、全員がダイビングから戻ってきたことを確認する。
- ☐ ダイバー全員にバディがいることを確認する。
- ☐ 各ダイバーが適切な器材を装備していることをチェックする。

3. PADI Divemaster として、PADI プログラムのアシスタントとして働くときや、プログラムを単独で実施するときには、PADI 規準を守るという責任があります。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

4. ダイビングを監督する際に、どのような要素について自分で判断する必要があるか？

- ☐ どの位置で監督するのがベストか
- ☐ ダイビングのコンディションは良いか悪いか
- ☐ どのようなダイビング方法をアドバイスすべきか
- ☐ 上記すべて

5. 適切な監督位置を選ぶ際には、_____ 場所と _____ 場所という 2 つの要素の間で、全体として最も好都合である場所を選ぶ。

- ☐ エントリーする／コンディションを評価する
- ☐ すぐに手を貸せる／エントリーする
- ☐ ダイバー全員がよく見える／エントリーする
- ☐ ダイバー全員がよく見える／すぐに手を貸せる

6. 認定ダイバーのグループを監督しているときに、一人のダイバーが浮上してきて助けを求めています。ダイブマスターに求められる役割は：

- ☐ 事故に巻き込まれていないダイバーに集中できるよう、レスキュー・ダイバーに頼んで状況に対処してもらう。
- ☐ 現場にいる人の中で、認定ダイバーとして自分が一番上のランクであれば、事故を管理する。
- ☐ ボートの船長が事故を管理するのをアシストする。
- ☐ 上記のどれでもない。

7. 水中で生徒ダイバーを教えているインストラクターをアシストするときのダイブマスターのポジションとしてベストなのは：

- ☐ 必要な場合に、生徒ダイバーがダイブマスターの注意をすぐに引ける位置。
- ☐ グループ全員とインストラクターがよく見える位置。
- ☐ 速やかにトラブルに対処できる位置。
- ☐ 上記のすべて。

8. デモンストレーションレベルのスキルパフォーマンスにはどのような特徴があるか？

- ☐ 重要ポイントを強調しながら、正しい順序でゆっくりとスキルをデモンストレーションする。
- ☐ 素早くスムーズにスキルをデモンストレーションする。
- ☐ 少なくとも 4 回繰り返してスキルをデモンストレーションし、異なる角度から見せる。
- ☐ ありがちな問題点を取り入れたデモンストレーションをする。

9. あなたは Open Water Diver コースで 4 人の生徒ダイバーを教えているインストラクターを、オープンウォーターでアシストしている。インストラクターが 1 人の生徒に浮上スキルを教えています。あなたの役割は：

- ☐ より効果的にコントロールできるよう、インストラクターと一緒に浮上する。
- ☐ 残りの生徒と残って、監督する。
- ☐ 1 分間待って、残りの生徒ダイバーと一緒に浮上する。
- ☐ 残りの生徒ダイバーを短いツアーに連れて行く。

10. スキルがうまくできない生徒ダイバーをダイブマスターがアシストしていて、その生徒ダイバーが問題点を克服してスキルを正しくできるようになったら、インストラクターの評価を受けずにトレーニングを再開してよい。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

11. 子供を監督し指導しているときには、成人の場合より大きな注意義務があるとされ、『PADI Instructor Manual』に記載されている _____ を熟知し、それに従わなければならない。

- ☐ PADI Seal Team 規準
- ☐ Bubblemaker プログラム
- ☐ ユース・リーダーの義務
- ☐ 規準のまとめ

12. 身体障害があってもスキルをマスターできない生徒ダイバーをアシストしている。どう対応すべきですか？

- ☐ 他の生徒ダイバーと同じようにスキルをマスターするよう要求する。
- ☐ そのスキルは省略して、別のスキルに進む。
- ☐ 本人のできることに焦点を絞り、その能力の範囲内でスキルの達成条件を満たす方法を探す。
- ☐ インストラクターに生徒ダイバーを再評価するよう頼む。

13. 『PADI Instructor Manual』に規定されているとおりに PADI 規準に従うことが大切なのは、それがダイバーの安全のために存在するのと同時に、PADI プログラムを実施するに当たっての教育的有効性と法的保護の根拠になるからである。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

14. ダイブマスターが追加のオープンウォーター・ダイブで Discover Scuba Diving の参加者を監督しているときには：

- ☐ 楽しい経験にしてあげるために、写真やビデオを撮ってあげるのがよい。
- ☐ 必要があれば、ただちに参加者に手を伸ばし、浮力を調節し、アシストできる位置にいる。
- ☐ 参加者に前を泳がせ、自分は後ろからついていって見守る。
- ☐ 参加者と一人ずつ一緒に潜降／浮上する間、他の参加者は待たせておく。

15. PADI Skin Diver コースに参加できる最低年齢は：

- ☐ 最低年齢制限はない。
- ☐ 8
- ☐ 10
- ☐ 12

16. ディープダイビングの監督方法を決める場合、どのような点を考慮する必要があるか？

- ☐ ダイバーの経験、自信、スキル、姿勢。
- ☐ ダイビング中、ボートの船長がどこにいるか。
- ☐ カメラやライトについて、水中でダイバーがどのような手助けを必要とするか。
- ☐ 最も近い再圧チャンバーまでの距離。

17. 太陽、月、地球の間の重力の相互作用が _____ を引き起こす一方で、風は _____ を引き起こす最も一般的な揺り動かす力である。

- ☐ 潮の干満／波
- ☐ うねり／流れ
- ☐ リップカレント／大きなうねり
- ☐ 波／潮の干満

18. 強風が吹いて水面の水が沖合へ押しやられた翌日、透明度が良くなって水が冷たくなった。この原因は：

- ☐ ダウンウェリング
- ☐ 極端な潮の干満
- ☐ ロングショアカレント
- ☐ アップウェリング

19. 海拔高度で窒素 80%酸素 20%の混合ガスを海水の水深 20 メートル／ 66 フィートへ持っていったら、窒素の分圧は何気圧 (bar/ata) になるか？

- ☐ 1.6 bar/ata
- ☐ 0.8 bar/ata
- ☐ 2.4 bar/ata
- ☐ 2 bar/ata

20. 認定を受けたエンリッチド・エア・ダイバーがエンリッチド・エアでダイビングする場合、ダイバーはシリンダーの酸素含有量を自分自身で分析するか、資格のある人が分析している内容を確認する必要があります。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

21. 保護スーツを着ていない場合、水中では空気中より約 _____ 倍速く体温が奪われる。

- ☐ 8
- ☐ 10
- ☐ 16
- ☐ 20

22. 水深 40 メートル／ 132 フィートで風船に空気を 2 リットル入れて膨らませて放したら、破裂しないと仮定して、水面に着いたときの体積は？

- ☐ 10 リットル
- ☐ 8 リットル
- ☐ 6 リットル
- ☐ 2 リットル

23. 耳抜きができない状態のまま、つまんだ鼻に対して無理に長く息を吐いていると、生じる恐れがあるのは、

- ☐ サイナスのスクイズ
- ☐ 耳管の破裂
- ☐ 正円窓の破裂
- ☐ 卵円窓の破裂

24. 個人差はあるが、大半のダイバーが水深約 _____ でガス昏睡の影響に気付き始める。

- ☐ 10 メートル／ 30 フィート
- ☐ 20 メートル／ 60 フィート
- ☐ 30 メートル／ 100 フィート
- ☐ レクリエーションダイビングの限界を超えた深度

25. 潜降中にスクイズが起きると、_____ が最も影響を受ける。

- ☐ 内耳
- ☐ 中耳
- ☐ 外耳
- ☐ 上記すべてが等しく影響を受ける。

26. 暑い日に、フルウェットスーツを着たダイバーが汗をかいている。皮膚は冷たくてじっとりしていて、吐き気と脱力を訴えている。このダイバーはおそらく：

- ☐ ヒートストローク
- ☐ ハイポサーミア
- ☐ 一酸化炭素中毒
- ☐ ヒートエグゾーシオン

27. ハルデーンの減圧モデルは、組織に溶け込んだ窒素と周囲圧の間の圧力勾配を許容限度内に抑えることによって減圧症を回避することができるという考え方に基づいている。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

28. 肺の過膨張傷害に対するファーストエイド手順は？

- ☐ 酸素を与える - できれば 100%にちかい酸素
- ☐ 患者を横向きに寝かせた姿勢を維持し、気分がよくなった場合でも起き上がらないよう指示する。
- ☐ 気道、呼吸、循環を確保し、救急隊に連絡する。
- ☐ 上記のすべて。

29. 次のダイブを待っているときにダイブコンピューターが故障した場合、バディからダイブコンピューターを借りることができればダイビングを続けることができる。

- ☐ 正しい
- ☐ 誤り

30. RDP テーブルを使用 - 水深 24 メートル／ 79 フィートで 28 分間のダイブをし、39 分間の水面休息後、水深 18 メートル／ 59 フィートで 24 分間潜った。2 回目のダイブ後の圧力グループは？

- ☐ S
- ☐ T
- ☐ U
- ☐ P

31. ダイビング後の飛行機搭乗に関するガイドラインによると、1 回だけのダイブの場合は、終了後、民間ジェット旅客機に乗る前に、_____ 時間待機しなければならない。

- ☐6
☐10
☐12
☐24

32. eRDP ML を使用 – ダイビングクルーズ船に乗っているダイバーが、1 日に 3 回のダイブをした。3 回目のダイブ後の圧力グループは？

ダイブ 1 – 29 メートル／ 99 フィート 16 分

水面休息 – 1 時間 15 分

ダイブ 2 – 17 メートル／ 54 フィート 30 分

水面休息 – 2 時間

ダイブ 3 – 12 メートル／ 39 フィート 55 分

- ☐K
☐B
☐Q
☐M

33. eRDP ML を使用 – このマルチレベルダイブで、3 つ目のレベルでの最大許容時間（ノンストップ時間）は？

レベル 1 – 34 メートル／ 115 フィート 8 分

レベル 2 – 19 メートル／ 55 フィート 12 分

レベル 3 – 12 メートル／ 40 フィート ____ 分

- ☐25
☐47
☐79
☐87

候補者声明： 私は答えを間違えた問題についてすべて説明を受け、間違えた部分を理解しました。

署名： _____

日付： _____